

令和4年度

横浜市青少年野外活動センター

(三ツ沢公園・くろがね・こども自然公園)

事業計画書

公益財団法人横浜市スポーツ協会

目次

1 基本方針	
(1) 施設管理運営の基本的な考え方	1
(2) 施設管理運営の目標	1
(3) 令和4年度の重点取り組み内容	1
2 施設の管理運営	
(1) 職員の配置と育成	2
(2) 施設及び設備の維持、保全、修繕等への取組	2
(3) 事故防止体制	3
(4) 防災に対する取組	4
(5) 利用者ニーズ・要望・苦情への対応	4
(6) 個人情報保護に対する取組	5
(7) 横浜市の重要施策を踏まえた取組	5
3 事業の企画・実施	
(1) 事業実施に関する基本的な考え方	6
(2) プログラム開発と実施計画	6
(3) 自主事業計画	6
(4) 安心できる施設環境と利用促進・広報計画	7
(5) 学校教育機関・他の青少年施設・地域等との連携・協働	7
(6) 新たな生活様式に対応した施設運営	8
(7) 収支計画及び指定管理料	8
別添 「収支予算書」	
「修繕計画書」	
「自主事業一覧」	
「利用にかかる料金一覧」	

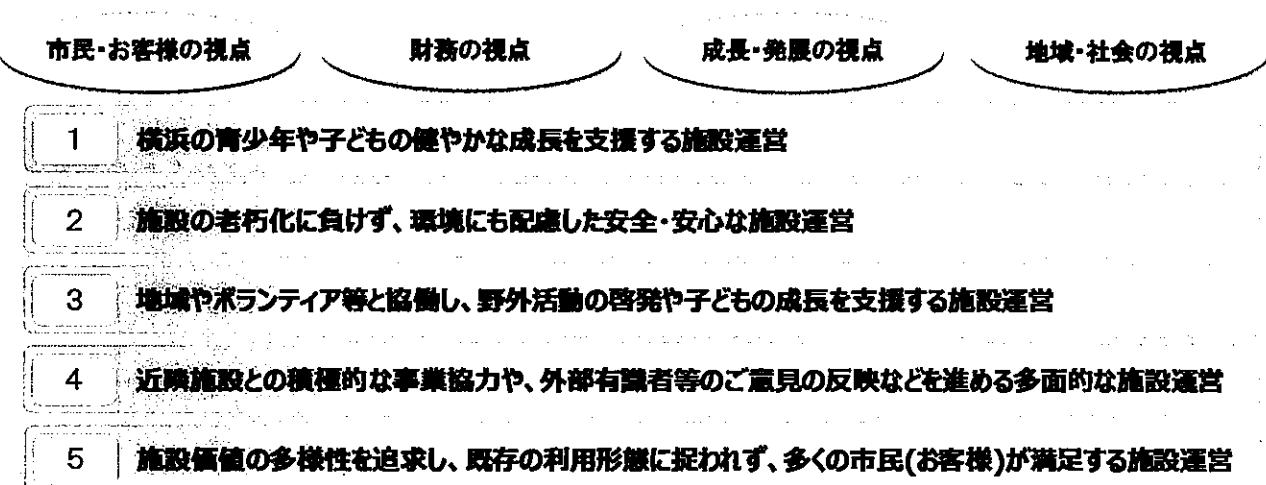
令和4年度 横浜市青少年野外活動センター事業計画書

1 基本方針

(1) 施設管理運営の基本的な考え方

青少年野外活動センター3施設（以下野活センター）の管理運営を行うにあたっては、施設の設置目的及び関連法令や施策等を理解したうえで、現在の青少年を取り巻く課題の解決に寄与する利用促進や事業展開を積極的に進めています。

このために、第4期指定管理におけるコンセプトを「こども・青少年が健やかに育つ、そして市民が元気になる野外活動センター」とし、5つの管理運営基本方針を策定しました。



(2) 施設管理運営の目標

新型コロナウイルス感染拡大に伴い利用減少が生じた令和2~3年度を踏まえ、令和4年度も引き続き感染予防のための利用制限を実施して、平成28年度から令和元年度の平均実績の60%から70%程度を目標利用者数として設定します。

目標値	三ツ沢公園	くろがね	こども自然公園	合計
年間利用延べ人数	16,400人	14,800人	22,200人	53,400人

(3) 令和4年度の重点取り組み内容

主たる着眼点	重点的に取組む事項
<ul style="list-style-type: none">●感染対策を徹底した施設の管理運営●施設利用者数の目標値への回復●利用促進に資する新規サービス●老朽化に対応した施設管理	<ul style="list-style-type: none">◆感染対策マニュアルの隨時見直し◆感染対策を踏まえたプログラムの開発・提供及び計画的な施設利用の広報◆積極的な自主事業の展開◆各種学校との連携体制の構築◆日常点検による不具合の早期発見と対応及び計画的な修繕の実施

2 施設の管理運営

(1) 職員の配置と育成

ア 安全かつ効率的な管理運営体制

各野活センターには、野外活動の専門知識を有する人材を管理運営統括責任者として配置し、そのもとに施設利用管理責任者として2名の職員を配属させ、各施設合計3名の責任体制とします。また、お客様への安全な活動支援や日常清掃など管理運営業務をサポートするアルバイト職員「サポートスタッフ」を配置します。

お客様へのプログラム指導補助をはじめ、野外活動教室の企画・実施、清掃や小破修繕などの施設管理支援、学校や地域での派遣指導等は、市民ボランティアと協働で行います。

当協会本部にて、野活センターを所管する担当部署（施設経営課）のほか、各種スポーツ施設やイベントを統括する部門が野活センターの管理運営業務を総合的にサポートします。

イ 人材育成

職員研修は、質の高いサービスを提供するために、OJTや外部での研修なども含めた体系的な研修の仕組みを整え、職員の業務遂行能力の向上を継続して実施していきます。

研修名	対象
感染症対策研修	全スタッフ
接遇・ノーマライゼーション研修	全スタッフ
個人情報保護研修	全スタッフ
公共サービス従事者研修(条例等解釈、コンプライアンス)	全スタッフ
人権研修	全スタッフ
心肺蘇生・AED操作研修	全スタッフ
野外活動施設職員研修	全スタッフ
マネジメント・ビジネススキル研修	所長

(2) 施設及び設備の維持、保全、修繕等への取組

ア 施設の点検・修繕計画

建築物や施設周辺は1日2回（宿泊利用がある場合は1日3回）以上、設備は稼働時に日常点検を行い、異常が発見された場合は、危険回避のための応急処置を速やかに行ったり、早急に所長に報告し、お客様の安全を確保します。

また、横浜市の策定した「維持保全の手引き」及び「施設管理者点検マニュアル」に則り、法定点検及び機能維持点検（自主点検）については、実績と信頼のある専門業者へ委託します。消防設備などの法定点検は、法令等を遵守した業務仕様書に基づいて点検を実施し、不具合がある場合は早急に修繕を実施します。

日常点検・清掃や定期点検等を通じて修繕案件が確認された場合は、速やかに修復のための設計をし、契約規程に基づいて実施します。また、60万円を超過することが想定される場合は、速やかに横浜市に協議申し入れをし、今後の修繕実施に向けた調整を進めます。

【修繕計画書参照】

業者による定期点検項目	三ツ沢	くろがね	こども自然
法定点検 消防設備点検	2回／年	2回／年	2回／年
法定点検 自家用電気工作物点検	6回／年	—	6回／年
法定点検 エレベーター保守点検	—	—	4回／年
法定点検 ポイラー保守点検	2回／年	—	2回／年
法定点検 ばい煙測定	—	—	2回／年
法定点検 12条点検(建築物)	1回／年	1回／年	1回／年
法定点検 12条点検(設備)	1回／3年	1回／3年	1回／3年
自主点検 浴槽ろ過装置保守点検	1回／年	—	1回／年
自主点検 ポンプ・ファン保守点検	—	—	1回／年
自主点検 アスレチック遊具保守点検	—	3回／年	—

イ 清掃計画

子どもや青少年の健全育成を目的とした施設として、また社会奉仕活動のプログラムの一環として、お客様には原則、宿泊室や浴室など利用した場所を清掃していただきます。

日常点検と併せて、職員による日常清掃を徹底して行い、美化に努めます。浴室やトイレ、厨房、食堂などの特に衛生面で配慮すべき水周り清掃については一層強化します。

床面のワックスがけや高所清掃、ガラス・サッシ清掃など、専門的な技術が必要な清掃は、専門業者に委託して実施します。

ウ 外構・植栽管理計画

日常点検において植栽の状態確認や病害虫の発生等の早期発見に努めると同時に、専有部分に属するマンホールや路面等の浮きやはがれなどのチェックも行います。また、台風や暴風雨、降雪後は速やかに点検し、状況に応じて落ち枝や降雪等の除去作業にあたります。

植栽管理においては、安全性と高度な専門性が求められるため、原則として市内の中小企業者に作業を委託します。

くろがね野活センターのグラウンドは、鶴見川水系の調整池となっているため、専門業者による排水溝の汚泥引抜き清掃を定期的に行い、機能の維持に努めます。

(3) 事故防止体制

ア お客様の安全のための施設づくり

お客様が使用するプログラム用品や建物、設備等の状態は、日常点検でチェックし安全を確認します。

施設の利用前や活動前には、職員が正しい用具の使用方法や火気の取り扱い方法、蜂などの害虫や食中毒への注意喚起、ルールやマナーといった野外活動ならではの指導を子どもたちに直接おこないます。

イ 事件・事故を未然に防止する平時の体制

緊急時において、迅速かつ効果的な対応をおこなうため、様々な危機管理に対応できるようにマニュアルを整備しています。

開館時は日常点検に併せて巡回し、防犯、防災に努めます。また、開館時間外の保安警備体制は、防犯カメラを含む機械警備システムにより 24 時間 365 日監視します。

ウ 安全確保のための緊急・救急体制

緊急時において、迅速かつ効果的な対応を行うため、危機管理担当者を所長とし、当団体本部とともに危機管理体制を構築します。

万が一、お客様のご利用中に人身事故等の発生が確認された場合は、職員が発生現場に急行し冷静に状況把握を行うとともに、救急隊要請を行います。不審者侵入やお客様間でのトラブル等による傷害事件等が確認された場合は、至急警察に通報し、緊急出動を依頼します。

エ 情報収集と報告体制

各野活センターを所轄する警察署とは日ごろより連絡体制を構築し、施設近辺で事件性のある事案等が発生した場合や注意案件などについて、直接情報提供を受けられるようにします。

事件、事故等が発生した場合は、その際に行った初期対応や緊急対応等を時系列で記録、整理し、各種報告書を作成します。その報告書をもとに発生原因の分析や課題整理・評価を行い、横浜市に適宜報告するほか、関係マニュアルの見直しを含めた再発防止策を講じます。

オ 補償体制

建物や建築物などの設備構造上の欠陥あるいは管理上の不備等に起因して、お客様に身体的傷害や財物損壊を与えた場合に備え、施設賠償責任保険及び生産物賠償責任保険に加入します。

(4) 防災に対する取組

ア 災害対応に備えた体制

お客様の信頼に応え、安全・安心を確保する責務を果たすため、日ごろから危機管理基本マニュアルに基づいて安全第一を旨とした行動をしていきます。

災害時に備え、消防法に基づいた所長を隊長とする自衛消防隊を組織し、火災発生時の役割分担を明確にした体制を整えます。

イ 自然環境の変化や災害予防に応じた危機管理体制

自然災害の発生のおそれがある場合、震度5強以上の地震が発生したときや重大な被害の発生時には、当協会本部に災害対策本部を設置します。また、熱中症対策として指標計を設けお客様に注意を呼び掛けます。

(5) 利用者ニーズ・要望・苦情への対応

ア モニタリング・評価・改善の管理体制

野活センターを管理するにあたっては、各所長が統括責任者としてあらゆる有効な方法を用いて施設運営の評価を認識し、事業評価会やOJTなどを通じて、業務水準の向上を図るようにします。すべてのモニタリングの実施結果は、PDCAサイクルに則ってその内容を理解し、管理業務や教室事業などの見直しに繋げます。

イ ご意見・要望・苦情の受付と反映

お客様からいただいたご意見やご要望、苦情等は所定のフローに従って対応します。

項目	内容	時期・頻度
お客様アンケート	利用団体引率者、教室参加者に施設の管理状況やプログラム内容などの満足度を調査	利用・参加後隨時
ご意見箱の設置	施設受付に設置し自由記入	常時
ご意見ダイヤルの活用	横浜市コールセンターのご意見ダイヤルを周知	常時
当協会ホームページ	協会HP・各施設HPで受付可能	常時
地域から意見等の聴取	野外活動センター運営懇話会で直接聴取	1回／5年

ウ セルフモニタリングの実施

項目	内容	時期・頻度
事業評価会の開催	各野活センター所長と当協会本部担当者が 月次、四半期、年次で事業評価	1回／月
局部長会議の開催	当協会役職員が管理するすべての施設と 事業における収支状況の報告と改善策の決定	4回／年

(6) 個人情報保護に対する取組み

当協会は、個人情報取扱事業者として、プライバシーマークを認定取得し、個人情報の保護に関する法律の規定以上の措置を定める JISQ15001（個人情報保護マネジメントシステム－要求事項）に適合した個人情報保護体制を構築・運用し、大切なお客様の個人情報を厳格に管理します。

野活センターの管理・運営において、年2回の個人情報の保護に関する自主点検や、アルバイト職員・外部指導者・ボランティアスタッフを含む全職員に対する年1回以上の研修と共に、個人情報が含まれる業務を委託する事業者に対し、秘密の保持が厳守できる体制を確認・審査した上で契約を締結するなど、個人情報を保護する高品位なマネジメントシステムを実践します。

(7) 横浜市の重要施策を踏まえた取組

取り組む主な重要施策	内 容
横浜3R夢プラン	野外炊事での食品ロス、自然観察やクラフトでの環境学習など
人権啓発推進	平等・公平な施設運営とそのための人権研修の実施など
男女共同参画推進	性別にかかわらず誰もが働きやすい環境の整備など
市内企業への優先発注	物品購入や修繕等を市内中小企業に優先して発注
SDGsへの取組	施設の管理運営の中でひとつでも多くの目標を達成する
インクルーシブの推進	障がいの有無、年齢等を問わず誰もが利用できる施設運営

3 事業の企画・実施

(1) 事業実施に関する基本的な考え方

ア 野外活動の普及・振興のための取組み

野外活動を子どもや青少年をはじめとする多くの市民の方々に普及・振興させるため、指導技術や管理運営能力を有する指導者（人）、関連施策や子ども、青少年の健全育成に適った活動内容（プログラム）、そして安全性や快適性を確保した施設（フィールド）の3つの要素を整えていきます。

イ 野外活動センター3施設の連携

3施設職員の合同研修会や人員体制の相互補完、プログラム・イベントの複合的な展開により野外活動指導に係る技術や施設運営サービスの向上を図るほか、広報・PRや物品等の一括発注を行うことで、スケールメリットを発揮した運営を行います。

(2) プログラム開発と実施計画

野活センターを運営するうえで重要なアイテムである「野外活動プログラム」については、横浜市の子どもや青少年にかかる関連施策の内容を十分に踏まえたうえで、各施設の特性やお客様をはじめとする市民の皆さまのご要望等を研究し、ニーズに則した内容とします。

ただし、感染予防のため一部のプログラムにおいて制限を設けます。

プログラム	内 容
野外料理	飯盒炊飯のほかメスティンを用いた個人での炊飯体験を提供 バーベキュー・石窯料理等のメニューを拡充 餅つき・流しそうめんの提供の中止を継続
自然観察・環境教育	生物・植物観察などのほか、SDGsの理解を深める活動を提供
集団活動	キャンプファイアや野外ゲームなど、感染予防を徹底した活動方法での実施を助言
クラフト	焼き板・木の実のペンダントなど自然物を活用したクラフトを提供
アウトドアスポーツ	ヨコハマさわやかスポーツやスラックラインなどの活動を拡充

(3) 自主事業計画

自主事業は、各施設の立地特性や施設環境を踏まえ、市民への自然体験活動等の機会の拡大や利用するまでの利便性の向上、さらに冬季閑散期や平日空きコマの利用促進を実現し、施設利用者数が増加するようにします。【詳細は自主事業一覧を参照】

項目	内 容
教室事業	青少年、幼児、ファミリー、指導者、一般市民等を対象に企画・実施 横浜市内の大学と連携した教室事業の展開
飲食事業	野外炊事用食材セット、飲料等の販売
物販事業	炭や軍手等のプログラム用品の販売、自動販売機の設置
レンタル事業	バーベキューグリルやダッヂオーブン等のプログラム用品のレンタル
その他事業	公衆電話の設置(こども自然)、派遣指導等

(4) 安心できる施設環境と利用促進・広報計画

全てのお客様にユニバーサルデザインに基づいた対応を実践するとともに、公平でより良いサービスを行うため、アンケート等を通じてお客様から意見等を積極的にいただき、職員研修を通してサービスの向上を図っていきます。

また、野活センターの新たな利用促進や利便性の向上を得るために、次のサービス及び広報活動を企画・展開します。【利用にかかる料金一覧表を参照】

利用促進	内 容
新たな取組	デザイン系学校と連携したピクトグラムを用いた施設案内 Eメール・電話・オンライン会議ツールを用いた事前打ち合わせ
継続する取組	日帰り利用の時間延長(夜間利用)、室場別の利用予約受付、防災教室の開催と防災プログラムの提供、寝具リース、関係団体への情報提供の強化、野外運動遊びプログラムの作成・配布、感染予防パネル等の設置、インターネット等による抽選会手続きの簡素化、家族・グループの利用促進、当日受付型プログラムの提供による利用促進、横浜市が推進するウォーキング事業の参画、「ハマハグ」の登録、物販・レンタル物品の拡充、自動販売機の増設

広報活動	内 容
新たな取組	SNS 等の活用を拡充
継続する取組	「広報よこはま」の活用、教室事業案内「自然と遊ぼう」の市内小学校への全児童配布、市内公共施設でのチラシ・パンフレットの配布、インターネットの有効利用(ホームページ、フェイスブック等)、スポーツ情報サイト「ハマスポ」での記事掲載、3施設共通リーフレットの配布、「タウンニュース」等地域情報誌への掲載、関係団体や当協会管理施設等での PR、報道機関への情報提供

(5) 学校教育機関・他の青少年施設・地域等との連携・協働

これまでに築いた地域との協力関係をより強固にしていくほか、学校等の教育機関をはじめ、青少年団体や公園施設などといった多様な機関との連携・協働による各種事業を展開し、野活センターの利用促進、地域での野外活動の普及・振興を積極的に図っていきます。

項目	事業例
学校教育機関	柔軟な優先利用の受付、小学校体験学習の事前・事後学習への協力、職場体験や職員研修の受入れ等
地域	地域住民が参加しやすいイベントの開催及び地域イベントへの協力(指導者等の派遣)、ウォーキングの拠点化、地域の防災・犯罪防止・福祉活動への協力、特技を持つ地元人材のイベント等事業への講師登用等
他機関等	[青少年団体]青少年指導員連絡会などの連携、青少年関連施設や「公益財団法人よこはまユース」との協働事業、「青少年相談センター」との連携事業、放課後児童育成事業への協力、地域の障がい者団体への活動支援、地元ボランティスカウトとの事業連携、横浜市野外活動指導者協議会との連携(事業協力依頼、研修会の実施等) [スポーツ施設・団体]近隣スポーツセンターとの協働事業、総合型地域スポーツクラブとの協働事業、ヨコハマさわやかスポーツ普及委員会との協働事業

	[公園施設]三ツ沢公園(ニッパツ球技場、陸上競技場、馬術練習場、平沼記念体育館)、こども自然公園('NPO 法人こども自然公園どろんこクラブ'、万騎が原ちびっこ動物園) [近隣農家]食育に関する事業協力依頼 [当協会管理施設]横浜市少年自然の家・スポーツセンター等
--	--

(6) 新たな生活様式に対応した施設運営

新型コロナウイルスの感染症拡大防止に向けて、横浜市をはじめスポーツ庁、業界団体等のガイドラインを参考にした野外活動センター独自の受入れガイドラインに基づき、感染防止を徹底して運営します。

ア お客様への感染防止対策の具体例

場面	内容
予約から当日まで	受入れガイドラインの周知とご理解・同意、体温測定などの体調管理、参加者の連絡先の把握、人数制限に応じた予約など
受付時	体温測定、手洗いまたは消毒など
活動中	マスクの着用、身体的距離の確保、食事・入浴中の会話を控える、感染リスクの高いプログラム提供の中止、使用物品や場所の消毒、他者の寝具・シーツに触れない運用、発熱時の隔離など
帰宅後	帰宅後 2週間以内に「陽性者」となった場合はご連絡いただくなど

イ 室場別の対応

感染状況などに応じて、お客様の安全・安心を最優先に考え、ソーシャルディスタンスを保てるように利用団体数の制限及び室場別の定員を設定して運営します。

ウ 職員の対応

出勤前に検温などの体調管理をおこない、体調不良の場合は自宅待機とします。また、勤務中はマスク着用のほか、うがいや手洗いを徹底し、清掃時にはゴム手袋を着用するなどの感染予防をおこないます。

施設内の清掃・消毒作業は、マニュアルに則った場所や物品ごとに応じた方法で職員がおこないます。

(7) 収支計画及び指定管理料

ア 収入増への取組

収入計画策定にあたっては、安定した経営を実現するため、関連施策や市民ニーズを反映するとともに、過去の実績データに基づき積算をします。また、適正な市場価格を反映したサービス内容や提供価格の見直しをおこなうことにより収入増を図ります。

イ 安全性・効率性を重視した支出計画

支出計画策定にあたっては、施設の老朽化対策に必要な修繕の実施や、光熱水費などの適正な市場価格の反映、法定点検等の費用の確保、利用促進のための経費計上等をおこない、無理のない安定的な計画とします。また、適切な業務委託やスケールメリットを活かした発注などにより、経費の縮減を図ります。【詳細は収支予算書を参照】

団体名：公益財団法人横浜市スポーツ協会
施設名：横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター

収支予算書

1 指定管理・収入の部(令和4年度)

(1) 収入 ※指定管理料を除く

項目	内訳	合計金額 (円、税込)
利用にかかる実費負担収入 (A)		3,988,600
プログラムにかかる 材料費収入	クラフト代等収入	107,800
シーツ洗濯代収入	シーツ洗濯代収入	849,200
寝具代収入	寝具リース代収入	666,600
薪代収入	野外炊事・キャンプファイア用薪代収入	396,000
光熱水費収入	その他・市外利用者光熱水費実費負担収入	511,500
その他施設運営収入	ごみ処理費用負担収入	53,900
自主事業収益還元収入	自主事業収支差益還元	1,403,600

(2) 指定管理料を含めた収入合計

項目	内訳	合計金額 (円、税込)
利用にかかる実費負担収入 (A)		3,988,600
指定管理料 (B)		27,742,000
収入合計 (A)+(B)		31,730,600

団体名:公益財団法人横浜市スポーツ協会
施設名:横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター

収支予算書

2 指定管理・支出の部(令和 4 年度)

	積 算 内 訳	合計金額 (円、税込)
① 維持管理運営費用		31,730,600
人件費	給料(所長1人・常勤職員2人) その他(給付・手当・福利厚生費・退職給付引当金) 賃金(アルバイト)	20,500,000
修繕費	外灯支柱交換、小破修繕	880,000
設備管理費	消防設備点検、自家用電気工作物保守点検、ボイラー保守点検、浴槽ろ過装置点検、12条点検	759,000
保安警備費	機械警備	132,000
備品購入費	炊事用具 等	110,000
消耗品費	事務用品、衛生用品、プログラム用品 等	883,300
外構・植栽管理費	植栽管理	209,000
廃棄物処理費	一般廃棄物、横浜市ルート回収費 等	110,000
広報費	利用案内広告	55,000
印刷製本費	リーフレット作成 等	55,000
光熱水費	電気・ガス・水道	2,255,000
燃料費	灯油	44,000
保険料	施設賠償保険 等	30,000
使用料・賃借料	コピー機・パソコンリース、AEDレンタル、NHK受信料 等	352,000
委託料	定期清掃・害虫駆除、会計システム保守 等	605,000
報償費	ボランティアスタッフ謝金 等	44,000
公租公課費	収入印紙	10,000
旅費交通費	出張旅費	22,000
通信運搬費	電話、郵送料 等	220,000
支払手数料	毛布クリーニング 等	220,000
プログラム材料費	プログラム材料	56,100
シーツ代	シーツクリーニング	531,300
寝具代	寝具リース	666,600
薪代	薪代、運搬費	273,900
会費及び負担金	講習会参加費 等	22,000
原材料費	小破修繕用原材料 等	55,000
間接事務費	事務局管理経費	524,000
租税公課費	仮払消費税と仮受消費税の差額	2,106,400

団体名:公益財団法人横浜市スポーツ協会
施設名:横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター

収支予算書

3 自主事業・収入の部(令和 4 年度)

内 訳	合計金額 (円、税込)
② 自主事業による収入	4,617,800
教室事業 教室参加料収入	3,517,800
飲食事業 食材等販売収入	654,500
物販事業 物品販売・自動販売機手数料収入	344,300
項 その他 物品レンタル等収入	101,200
目	

団体名:公益財団法人横浜市スポーツ協会
施設名:横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター

収支予算書

4 自主事業・支出の部(令和 4 年度)

内 訳	合計金額 (円、税込)
② 自主事業による経費	4,617,800
教室事業 教室用消耗品、原材料、講師謝金 他	2,648,800
飲食事業 販売食材等の調達費	459,800
物販事業 物販品調達費、自動販売機目的外使用料・電気代	62,700
項 目 その他 レンタル物品調達費 他	42,900
自主事業還元支出 自主事業還元収入として繰入れ	1,403,600

団体名: 公益財団法人横浜市スポーツ協会
施設名: 横浜市くろがね青少年野外活動センター

収支予算書

1 指定管理・収入の部(令和 4 年度)

(1) 収入 ※指定管理料を除く

		内訳	合計金額 (円、税込)
利用にかかる実費負担収入 (A)			2,423,300
項目	プログラムにかかる 材料費収入	クラフト代等収入	52,800
	シーツ洗濯代収入	シーツ洗濯代収入	336,600
	寝具代収入	寝具リース代収入	251,900
	薪代収入	野外炊事・キャンプファイア用薪代収入	234,300
	光熱水費収入	その他・市外利用者光熱水費実費負担収入	265,100
	その他施設運営収入	ごみ処理費用負担収入	44,000
	自主事業収益還元収入	自主事業収支差益還元	1,238,600

(2) 指定管理料を含めた収入合計

		内訳	合計金額 (円、税込)
利用にかかる実費負担収入 (A)			2,423,300
指定管理料 (B)			25,603,000
収入合計 (A) + (B)			28,026,300

団体名:公益財団法人横浜市スポーツ協会
施設名:横浜市くろがね青少年野外活動センター

収支予算書

2 指定管理・支出の部(令和4年度)

	積算内訳	合計金額 (円、税込)
① 維持管理運営費用		28,026,300
人件費	給料(所長1人・常勤職員2人) その他(給付・手当・福利厚生費・退職給付引当金) 賃金(アルバイト)	20,000,000
修繕費	エアコン漏電遮断器交換、小破修繕	660,000
設備管理費	消防設備点検、濾過機保守点検、ボイラー保守点検、12条点検	510,400
保安警備費	機械警備	209,000
備品購入費	炊事用具 等	144,100
消耗品費	事務用品、衛生用品 等	553,300
外構・植栽管理費	植栽管理、グリストラップ・U字溝清掃	597,300
廃棄物処理費	一般廃棄物、横浜市ルート回収費 等	41,800
広報費	利用案内広告	50,600
印刷製本費	リーフレット作成 等	50,600
光熱水費	電気・ガス・水道	987,800
燃料費	灯油	9,900
保険料	施設賠償保険 等	40,000
使用料・賃借料	コピー機リース、AEDレンタル、NHK受信料 等	330,000
委託料	定期清掃・害虫駆除、会計システム保守 等	220,000
報償費	ボランティアスタッフ謝金 等	50,600
公租公課費	収入印紙	1,000
旅費交通費	出張旅費	70,400
通信運搬費	電話、郵送料 等	220,000
支払手数料	毛布クリーニング 等	149,600
プログラム材料費	プログラム材料	27,500
シーツ代	シーツクリーニング	211,200
寝具代	寝具リース	188,100
薪代	薪代、運搬費	162,800
会費及び負担金	講習会参加費 等	33,000
原材料費	小破修繕用原材料 等	50,600
間接事務費	事務局管理経費	411,000
租税公課費	仮払消費税と仮受消費税の差額	2,045,700

団体名：公益財団法人横浜市スポーツ協会
施設名：横浜市くろがね青少年野外活動センター

収支予算書

3 自主事業・収入の部(令和 4 年度)

内 訳	合計金額 (円、税込)
② 自主事業による収入	4,472,600
教室事業 教室参加料収入	3,736,700
飲食事業 食材等販売収入	275,000
物販事業 物品販売・自動販売機手数料収入	358,600
項目 その他 物品レンタル、公衆電話等収入	102,300

団体名：公益財団法人横浜市スポーツ協会
施設名：横浜市くろがね青少年野外活動センター

収支予算書

4 自主事業・支出の部(令和 4 年度)

	内 訳	合計金額 (円、税込)
② 自主事業による経費		4,472,600
教室事業	教室用消耗品、原材料、講師謝金 他	2,754,400
飲食事業	販売食材等の調達費	196,900
物販事業	物販品調達費、自動販売機目的外使用料・電気代	231,000
項 その他	レンタル物品調達費、公衆電話使用料 他	51,700
目 自主事業還元支出	自主事業還元収入として繰入れ	1,238,600

団体名: 公益財団法人横浜市スポーツ協会

施設名: 横浜市こども自然公園青少年野外活動センター

収支予算書

1 指定管理・収入の部(令和 4 年度)

(1) 収入 ※指定管理料を除く

内 訳	合計金額 (円、税込)	
利用にかかる実費負担収入 (A)	7,428,300	
プログラムにかかる 材料費収入	クラフト代等収入	201,300
シーツ洗濯代収入	シーツ洗濯代収入	1,597,200
寝具代収入	寝具リース代収入	1,149,500
薪代収入	野外炊事・キャンプファイア用薪代収入	579,700
光熱水費収入	その他・市外利用者光熱水費実費負担収入	1,018,600
その他施設運営収入	ごみ処理費用負担収入	70,400
自主事業収益還元収入	自主事業収支差益還元	2,811,600

(2) 指定管理料を含めた収入合計

内 訳	合計金額 (円、税込)
利用にかかる実費負担収入 (A)	7,428,300
指定管理料 (B)	31,618,000
収入合計 (A)+(B)	39,046,300

団体名:公益財団法人横浜市スポーツ協会

施設名:横浜市こども自然公園青少年野外活動センター

収支予算書

2 指定管理・支出の部(令和 4 年度)

	積 算 内 訳	合計金額 (円、税込)
① 維持管理運営費用		39,046,300
人件費	給料(所長1人・常勤職員2人) その他(給付・手当・福利厚生費・退職給付引当金) 賃金(アルバイト)	22,000,000
修繕費	宿泊室畳表替え、野外炊事場テント支柱補強、空調機リモコン交換、小破修繕	1,210,000
設備管理費	消防設備点検、自家用電気工作物保守点検、ボイラー保守点検、浴槽ろ過装置点検、ポンプ・ファン保守点検、エレベーター保守点検、12条点検	1,544,400
保安警備費	機械警備	176,000
備品購入費	炊事用具 等	198,000
消耗品費	事務用品、衛生用品、プログラム用品 等	938,300
外構・植栽管理費	植栽管理	594,000
廃棄物処理費	一般廃棄物、横浜市ルート回収費 等	132,000
広報費	利用案内広告	55,000
印刷製本費	リーフレット作成 等	55,000
光熱水費	電気・ガス・水道	4,334,000
燃料費	灯油	11,000
保険料	施設賠償保険 等	70,000
使用料・賃借料	コピー機・パソコンリース、AEDレンタル、NHK受信料 等	352,000
委託料	定期清掃・害虫駆除、会計システム保守 等	880,000
報償費	ボランティアスタッフ謝金 等	330,000
公租公課費	収入印紙	10,000
旅費交通費	出張旅費	55,000
通信運搬費	電話、郵送料 等	286,000
支払手数料	毛布クリーニング 等	55,000
プログラム材料費	プログラム材料	126,500
シーツ代	シーツクリーニング	998,800
寝具代	寝具リース	952,600
薪代	薪代、運搬費	400,400
会費及び負担金	講習会参加費 等	33,000
原材料費	小破修繕用原材料 等	110,000
間接事務費	事務局管理経費	846,000
租税公課費	仮払消費税と仮受消費税の差額	2,293,300

団体名:公益財団法人横浜市スポーツ協会

施設名:横浜市こども自然公園青少年野外活動センター

収支予算書

3 自主事業・収入の部(令和 4 年度)

内 訳	合計金額 (円、税込)
② 自主事業による収入	7,003,700
教室事業 教室参加料収入	4,673,900
飲食事業 食材等販売収入	1,392,600
物販事業 物品販売・自動販売機手数料収入	693,000
項 その他 物品レンタル、公衆電話等収入	244,200
目	

団体名:公益財団法人横浜市スポーツ協会

施設名:横浜市こども自然公園青少年野外活動センター

収支予算書

4 自主事業・支出の部(令和 4 年度)

		内 訳	合計金額 (円、税込)
② 自主事業による経費			7,003,700
項 目	教室事業	教室用消耗品、原材料、講師謝金 他	2,994,200
	飲食事業	販売食材等の調達費	974,600
	物販事業	物販品調達費、自動販売機目的外使用料・電気代	108,900
	その他	レンタル物品調達費、公衆電話使用料 他	114,400
	自主事業還元支出	自主事業還元収入として繰入れ	2,811,600

令和4年度 横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター 修繕計画

(税抜)

NO.	件名	見積金額	理由	修繕内容	実施時期	備考
1	外灯ポール補修	500,000	野外炊事場通路の外灯ポールの基礎部分劣化のため	基礎補修 ポール更新	第1四半期	
2	小破修繕	300,000		小破修繕	都度	
合計		800,000				

令和4度 横浜市くろがね青少年野外活動センター 修繕計画

(税抜)

NO.	件名	見積金額	理由	修繕内容	実施時期	備考
1	2階トイレ扉修繕	450,000	扉開閉不良のため	扉及び枠の交換修繕	第1四半期	
2	1階給湯器更新	150,000	経年劣化のため	ガス給湯器の更新	第2四半期	
3						
4						
合計		600,000				

令和4年度 横浜市こども自然公園青少年野外活動センター 修繕計画

(税抜)

NO.	件名	見積金額	理由	修繕内容	実施時期	備考
1	看板交換	350,000	管理棟宿泊室の看板の劣化のため	看板の交換	第1四半期	
2	テント支柱修繕	250,000	野外炊事場テント支柱の腐食のため	支柱の補強	第1四半期	
3	空調機リモコン交換	200,000	各所空調機の経年劣化による不調のため	リモコンの交換	第2四半期	
4	小破修繕	300,000		小破修繕	都度	
合計		1,100,000				